

会員からの便り

中部電力株式会社
技術開発本部 エネルギー応用研究所

渡邊 激雄

昭和 52 年卒業(第 36 回)



機械工学科を卒業して 40 年が経ちました。大学院前期課程を修了後、重電メーカーや輸送機器メーカーに勤め、核融合機器、重イオン粒子加速器、極低温冷凍機などの先端技術の開発に従事した後、平成 3 年に中部電力(株)に入りました。以来、空調や給湯に用いるヒートポンプや産業用電気加熱技術を中心に研究開発を行ってまいりました。平成 22 年から 25 年まで、横須賀の電力中央研究所に向向し、その後再び、現在の職場に戻り、引き続き勤務しております。

名古屋大学とのかかわりとしては、大学院を修了してからしばらくは出身の研究室を訪問しておりましたが、次第に足が遠のき、主将も勤めたバレーボール部の OB として体育館に行くくらいでした。平成 15 年ごろから、機械工学科の特別講義、エネルギー理工学専攻の特論、創造工学センターの高度総合工学創造実験の非常勤講師に呼んでいただき、ご縁をいただくことができました。

現在の工学研究科長の新美智秀先生は同級生です。平成 17 年に岐阜大学で開催された日本機械学会の熱工学シンポジウムの懇親会で新美先生にお会いした際に、定年後にゆっくりと博士論文を書こうと思っていると話しました。新美先生から、定年後では定年前の実験データなども利用しにくくなり、追加の実験もできないので逆に大変であり、現役のうち書いた方がいいといわれました。その後、会社の研究業務でかかわりの深かった廣田真史先生から強いお勧めと絶大なるご支援をいただき、社会人ドクターとして後期課程に入学し、博士号を何とか取得しました。主査は新美先生に勤めていただきました。

前述しました創造工学センターの高度総合工学創造実験の非常勤講師を平成 26 年から再び勤めております。大学院前期課程時代に、塑性加工研究室の技官としてお世話になった皆川清さんが、創造工学センターの技術職員として勤務しておられ、35 年ぶりにご一緒させていただいております。

創造工学センター長の酒井康彦先生は、現在、日本機械学会東海支部の支部長を勤めておられ、小職は支部の幹事を務めております関係で、酒井先生にお会いできる機会が多くなりました。平成 30 年 3 月 13 日(火)には、日本機械学会東海支部の総会を名古屋大学で開催する予定です。特別企画(特別講演、施設見学)

をトヨタ自動車の方とともに担当し、準備をしています。大学だけでなく、多くの企業の方にご来場いただければ幸いに存じます。